

「1校1取組」運動実施要項

1 趣 旨

体力向上に向けた組織的取組を推進するために、県内すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（国立及び政令市立学校を除く）において、各学校の実態に応じた体力向上に係る特色ある「1校1取組」運動を展開する。

2 対 象

公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校（国立及び政令市立学校を除く）

3 内 容

各学校において、体力・運動能力調査及び児童生徒質問紙調査の結果等から、自校の体力向上に係る実態を適切に把握・分析して課題を明らかにし、特に重点を置く体力・運動能力及び運動に対する意識や運動習慣等を取り上げ、目標値を設定し、目標達成に向けた取組を計画的かつ継続的に実践する。

〔例〕 体育科・保健体育科での取組、学校行事、児童・生徒会活動等での取組、教育課程外での取組、家庭・地域等での取組 等

4 「1校1取組」運動を実施するにあたって

下記事項に留意し「1校1取組」運動を設定するとともに、指導の充実を図りながら実践を進めること。

- (1) 各学校における児童生徒の実態から、特に重点を置く体力・運動能力及び運動に対する意識や運動習慣等を取り上げ、目標値を設定する。
- (2) 児童生徒の発達段階に応じて、体力や健康の必要性、体力・運動能力調査等の意義などを理解させ、自主的な取組が図られるよう配慮する。
- (3) 仲間とともに運動する楽しさを味わうことができる取組を実施し、運動機会の充実が図られるよう配慮する。
- (4) 実施中や実施後には、目標の達成状況を適切に評価し、取組内容や目標値等の見直しを行い、その後の実践に生かす。
- (5) 学習指導要領に沿った指導のもと、体育科・保健体育科の授業においても運動に対する意識や運動習慣の向上に繋がるような具体的な取組を行う。

令和6年度「1校1取組」運動を位置付けた『体力向上プラン』の作成及び活用について

《令和6年度のポイント》

① 体育・保健体育授業の充実・改善

- ★すべての子供が運動の楽しさを感じる授業づくり
- ★豊かなスポーツライフの実現につながる授業づくり
(3つの資質・能力をバランス良く育成する授業を！)

② 日常的な運動習慣の確立

- ★誰でも気軽に参加、続けて活動できる運動機会や雰囲気づくり
- ★ICTを活用するなどして興味を持って運動できる環境づくり

〈課題〉 今後、子供たちの体力向上に向けては、調査結果から特に、下記について、スポットを当てた取組が必要！

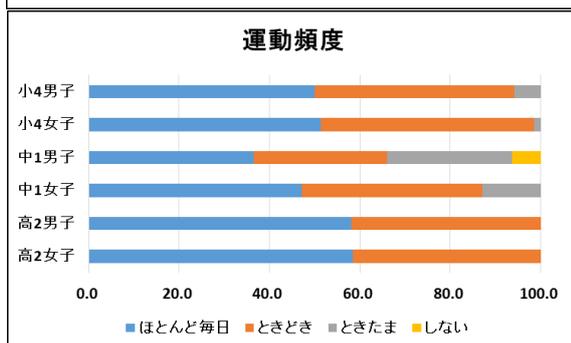
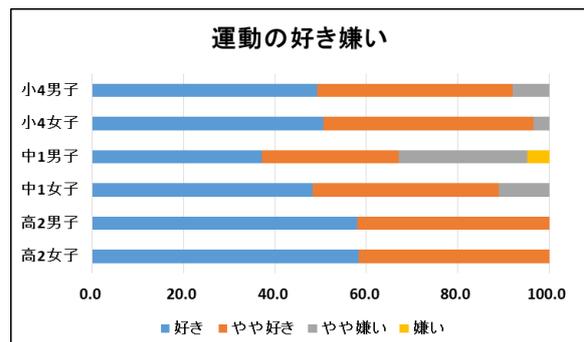
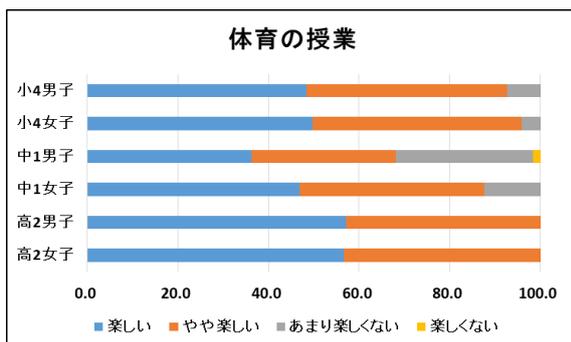
➤ 「楽しい」と感じる体育の授業づくり

☞ 授業改善のキーワードは、以下の3点です (R5福岡県体力向上推進委員会授業検討部会より)

- ① 期待感 : 「ワクワクする」という思いをふくらませ、運動を楽しむことができるように
- ② 安心感 : 「怖い」「痛い」等の心理的・身体的不安を取り除き、安心して運動に没頭することができるように
- ③ 共感 : 仲間とともに運動する喜びを味わいながら、協働して運動に挑戦することができるように

- 運動が「好き」と感じる児童生徒の育成
- 運動習慣を身に付けるための取組

○ 本県の子供たちの体力・運動習慣等に関する状況 (R5県の悉皆調査結果から)



※ 各学校の状況を分析し、実態を把握した上で、作成してください。

※ 作成方法は、例を参考にしてください。

「1校1取組」運動を位置付けた体力向上プランについて

1 目的

福岡県児童生徒体力・運動能力調査や全国体力・運動能力、運動習慣等調査等を通して、自校の児童生徒の実態を適切に把握・分析して課題を明らかにし目標設定したものを、体力向上の取組の要となる「体力向上プラン」に反映させて作成し、1年間を通じた検証改善サイクルの中で活用することで、全教職員が体力向上への意識を高め、体力向上に向けた組織的取組を推進できるようにする。

2 重点事項

「運動が好きな子供」、「積極的に運動に取り組む子供」、その結果として「体力・運動能力が向上」し、「運動に自信をもつ」といった好循環を生み出すため、より効果的な体力向上プランの作成及び活用にあたり、特に以下の2点を重点事項とした。

については、重点事項を位置付けた体力向上プランになるよう留意すること。

- 「運動に対する意識※1」の涵養に係る指標や取組等の位置付け
- 「運動習慣※2」が身に付いた子供の育成に係る指標や取組等の位置付け

※1 「運動することが好き」「体育の授業が好き」等の肯定的な意識（情意面）

※2 体育の授業を除き、運動（体を動かす遊び、手軽かつ継続できる運動等）を行う頻度が多い等（行動面）

3 体力向上プランの内容（4つの視点）

様式は任意で良いが、以下に示す4つの視点は必ず明記すること。

以下の（1）視点1から（4）視点4の順が、体力向上プランを作成する際の手順となる。

※ **別添「計画書・報告書の様式例」及び「計画書の記入例」**を参照のこと。

（1）【視点1】子供の実態分析

① 子供の実態分析

次の観点を参考に、児童生徒の実態を具体的な数値を元に把握・分析した上で、課題を明らかにする。

ア 運動に対する意識に関する課題（全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果や、福岡県児童生徒体力・運動能力調査児童生徒質問紙調査結果や、自校独自のアンケート調査結果などから）

イ 運動習慣に関する課題（福岡県児童生徒体力・運動能力調査児童生徒質問紙調査結果や自校独自のアンケート調査結果などから）

ウ 体力・運動能力に関する課題（実技調査結果などから）**※令和5年度の実技調査を参考に記載すること。**

※ ア・イ・ウについては必ず記載する。

② 課題の要因の分析

児童生徒の体力に係る課題が生じた要因を「体育科・保健体育科の授業」と「授業以外の取組」の両面から分析する。

(2) 【視点2】目標と成果指標（数値）の設定

視点1の分析結果を受けて、自校の目標を設定し、本年度、着実に実現すべき成果指標（数値）を設定する。成果指標には、「運動に対する意識」と「運動習慣」について必ず示すこと。また、成果指標については、評価する時期と方法を示し、結果についても記入できる欄を設けること。

○ 成果指標：「どこまで児童生徒を伸ばすのか」を具体化、数値化したもの。

※ 「体力・運動能力」については、令和7年度の体力・運動能力等調査の結果を指標として設定することとし、評価については示さないでも良い。

(3) 【視点3】本年度の重点的取組と指標（数値）の設定

視点1の要因を踏まえ、「運動に対する意識」を高めるための「体育科・保健体育科の授業」における取組、「運動習慣」を定着させるための「体育科・保健体育科授業以外の取組」の両面から、視点2の目標を実現するために重点的に取り組むこととその取組指標を示す。

○ 取組指標：「いつ（までに）、どのくらい行うのか」をスケジュール化、数値化したもの。

※ 多様な運動を適切に行うことによって、その結果として体力向上を図ることから、一部のみの実技テスト項目の数値を直接高めるための画一的な取組になることのないよう、「体力・運動能力」を高めるための取組は示さない。

※ 別紙「取組例」を参考にして、自校の実態に応じて学校全体で徹底して取り組むことができる効果的な取組内容に絞り込むこと

※ 「体育科・保健体育科授業以外」の取組指標には、「体力アップシートの活用（小・中学校のみ）」と「スポコン広場チャレンジランキングゾーン登録（小学校のみ）」を必ず記入すること。

(4) 【視点4】「1校1取組」運動名

視点3を受けて、本年度の重点的な取組内容がイメージできるような運動名を記載する。全教職員と全児童生徒で共有化でき、合い言葉のように口にすることができるように工夫すること。

4 体力向上プラン活用の留意点

(1) 全教職員で共通理解を図りPDCAサイクルを実施する

一部の教職員のみでなく、学校全体で組織的に取り組む。全教職員が体力向上について参画意識をもち計画的・協働的に実施できるよう、一人一人の役割を明確化・細分化する等の工夫をする。

(2) 短いスパンで検証・改善を行う

取組が確実に行われたか、その取組の結果どのような成果があったのかといった、取組指標と成果指標の2点から評価をし、取組を再考できる機会を設定する。学校評価と連動させる等、少なくとも学期に1回は検証・改善を行う。

※ 別添「計画書・報告書の様式例」及び「報告書の記入例」を参考に検証・改善を行う。

※ 「報告書」についても、様式は任意で良いが、【視点2】の評価について必ず明記し提出すること。それ以外の視点については、計画書の内容と同じでも良い。【視点3】については、随時改善しても良い。

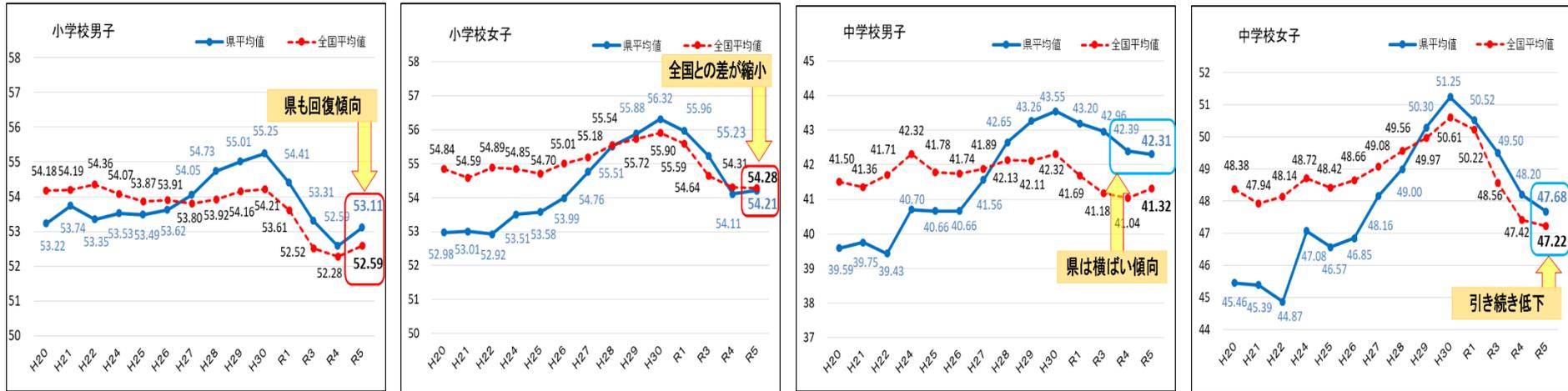
令和6年度体力向上プランの作成に向けて

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課

本県における子供の体力の現状～“体力は人間のあらゆる活動の源”～

本県の子供たちの体力については、コロナ禍における運動機会の減少や学習以外のスクリーンタイムの増加などが影響し、令和元年度以降、低下傾向にありましたが、令和5年度は、小学校は回復基調、中学校は低下傾向が緩やかになったと捉えられる結果でした。

体力は、人間のあらゆる活動の源であり、物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実にも深く関わっています。そのため、人間の健全な発達・成長を支え、健康的で充実した生活を送る上で大変重要なものです。徐々にコロナ前の生活を取り戻し始めた今、学校として、再度、子供たちの体力を見直してみましょう。



【体力合計点の推移 (令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より)】

学校の実態はどのような傾向にありますか？【視点1】

運動に対する意識

- 運動の好き嫌い
- 運動を大切に思う気持ち
- 体育の授業の楽しさ

運動習慣

- 1週間の総運動時間
- 週3回運動する割合
- 週1回しか運動しない割合

体力・運動能力

- 体力合計点平均値
- 体力合計点総合評価
- 種目ごとの体力傾向

実態をもとに、目標・評価計画を立てましょう【視点2・3・4】

成果指標

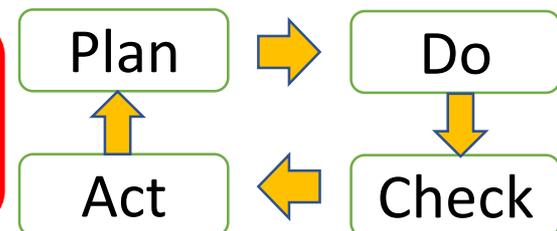
どこまで児童生徒を伸ばすのかを具体化・数値化する【視点2】

そのために…

取組指標

何を、いつまでに、どのくらい行うのかをスケジュール化・数値化する【視点3】

- 昨年と同じ分析になっていませんか？
- 昨年と同じ取組指標、成果指標になっていませんか？
- 昨年と同じ評価になっていませんか？



今の子供の実態を把握し、計画を立てて、取組みましょう

子供の豊かなスポーツライフの実現に向けて、目標を共有し、計画した取組を確実に実施しましょう！

今こそ知恵を絞って、子供の豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を高めましょう

詳細は、別添資料1を参照